

# 令和5年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業



令和5年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業（主催＝日本武道館・全日本剣道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）は、6月17、18日、研究者14名が出席して日本武道館大會議室にて実施された。

本事業は中学校保健体育科における武道授業の充実へ向け、年間8～10時間の授業時間想定で、教育効果の上がる剣道指導法を研究討議するものである。今回は、10月13～15日（東日本ブロック・三重県）と11月17～19日（西日本ブロック・広島県）で開催予定の「令和5年度全国剣道指導者研修会」（以下、全国研修会）の指導内容について発表・協議が行われた。

## ■1日目（6月17日）

開講式では、網代忠宏あじろただひろ全日本剣道連盟会長と和田健わだけん日本武道館振興課長が主催者挨拶を述べた。その後、佐藤義則さとうよしのり研究者の司会で会議は進行し、最初に軽米満世かろこめみつよ研究者から「新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した中学校における剣道授業」について発表があった。

続いて藤田弘美ふじたひろみ研究者は「学習評価」をテーマに令和3、4年度の指導法研究事業で利用した資料を提示し、全国研修会で行った講義を振り返った。途中、柴田一浩しばたかずひろ研究者、岩脇司いわわきつかさ研究者も説明に加わり、今年度の講義に向けた検討を行った。

有田祐二ありたゆうじ研究者は無料のアプリケーションソフトウェアの「AIスマートコーチ」について研究

発表を行い、基本動作、稽古法などの各種映像をスマートフォンやタブレット端末で再生して学習効果を高めることができるとし、ICTの活用法について説明した。また、柴田研究者が、攻防の楽しさを味わうために授業で実践した、後退動作を制限して行った簡易試合の映像を紹介して1日目が終了した。

## ■2日目（6月18日）

2日目は全国研修会に向けて、研究者が3班に分かれて研修内容の検討に入った。各担当より当日の実施内容について発表があり、花澤博夫はなざわひろお研究者の「体罰・暴言によらない指導」では、網代研究者より、「指さして注意する、机を手で叩きながら注意するといった、生徒を威圧する指導の具体例を注意事項として説明することで参加者の理解がより深まるだろう」との発言があり、受け手である生徒目線での指導を心がける重要性についての共通認識が図られた。

最後に研修内容の役割分担、研修会の流れの確認となり、講師の割り振りや講義時間、内容の順番など細部の微調整を行った。

閉講式では、網代会長が「全国研修会の参加者は意欲のある先生が集まってくるので、我々もそれに応えるべく、さらに研鑽をして研修会に臨んでいきたい」と主催者挨拶を述べた。最後に和田課長が主催者挨拶を行い、2日間の予定をすべて終了した。